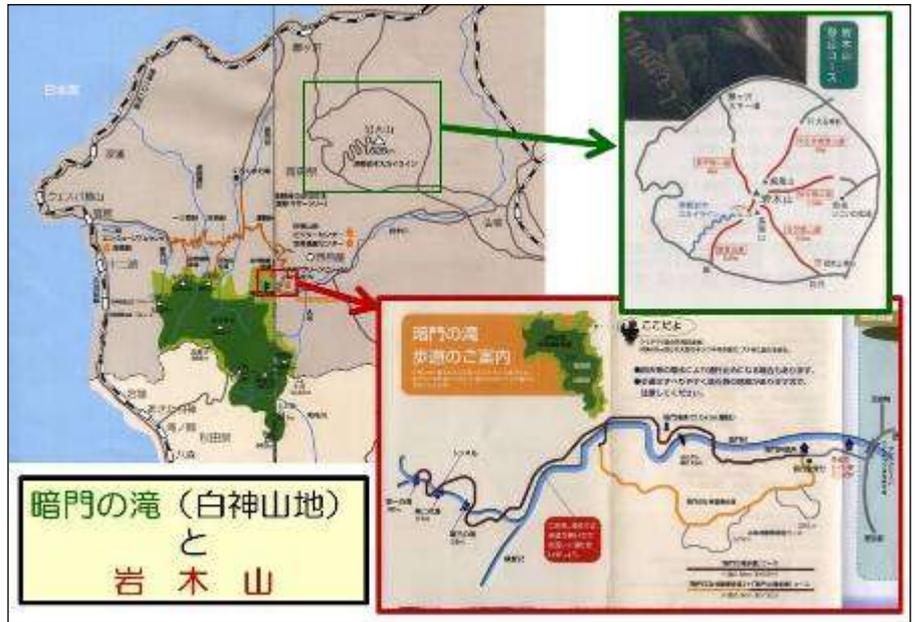


# 踏み跡 <My Mountains>

東北	白神山地と岩木山	No.308
----	----------	--------

9月末で定年退職になった。可能であれば意のままに暮らしをしてみたいと思い、雇用延長の手続きはせず、スカッと辞めることにした。定年退職記念にと言うか、かみさんの誕生日をどこか旅先でと言うか、諸々の思い付きで遠出をして見ようと言うことになった。

機会があったら一度行ってみたいと思っていた白神山地、しかし現在の脚のコンディションからすると重い山歩きは無理なので「白神山地の触り」を楽しんでみようと思って、旅程を組み立てて見た。自分の車で長距離ドライブでは疲れるので、夜行寝台で行って現地ではレンタカーを借りることにした。



平成16年10月13日

上野発(夜行列車) →

早い夕食を食べて家を出た。上野発 21時41分、寝台特急あけぼの。まずは缶ビールを飲んで熟睡を目指す。

平成16年10月14日 (夜行列車) →弘前(レンタカー) →西目屋村 →岩木山8合目 →嶽温泉

本荘を過ぎて秋田に向かってひた走る車窓の明るい景色で目が覚めた。穀倉地帯を抜けるような景色が続く秋田に到着。秋田を過ぎてしばらくすると八郎潟の東側の平原を走るようになり、やがて能代。能代からは米代川に沿って徐々に山の中へ入って行く。このあたりの景色の変化は面白い。

大館から北に針路をとり、峠を越えると碓ヶ関。そしてどんどん下って行くと所々にりんご畑が並ぶ景色に変わり、行く手前方左側に岩木山を望むようになると弘前駅に着く。

弘前着は9時30分。寝台車で熟睡したのでコンディションは良好。

駅レンタカーで予め手配してある車を借りてスタート。快晴の空の下、どこを走っていても岩木山とリンゴ畑が視界に入ってくる。

県道岩崎西目屋弘前線(28号線)に入って西目屋村のアクア・グリーン・ビレッジに11時に到着。

駐車場に車を停めて、身支度を整えてすぐに出発。今日の行程は暗門の滝の往復。ガイドマップによれば、往復5.2Km、所要時間は約二時間となっている。

暗門大橋を渡って、ブナの目立つ山道をしばらく登った後、鬼川辺沢の枝沢に入り沢に沿って登って行くようになった。溪流に沿った道は歩きやすく整備されているが、沢の流れは深いし早いので、所々にすれ違いに気をつけなければならない所もある。また滝を大きく高巻くために急斜面の上り下りや梯子もある。奥秩父の西沢溪谷をもっと溪谷っぽくしたような感じの谷である。水の色は名状し難い色で、絶えず耳に入ってくる音も、美しくまた激しい。まだ緑が多い木々に黄色や赤の色を付け始めた葉がよく目立つ。

第三の滝は、落差26m。僅かにS字型をして流れる水を受ける釜は、重厚な碧緑色。

第二の滝は、落差37m。ほぼストレートだが黒々とした岩肌の上を滑り落ちる水の色は真っ白で美しい。見上げると岩場の上の方はきれいに紅葉し始めている。

最後の第一の滝は、落差42mで細長く落ちて、滝壺近くでわずかに扇型に広がる水は迫力もあるし美しい。ここまで来ると滝壺付近でも黄色い紅葉の始まりがうかがえる。紅葉の盛りのころにはさぞや見事であろうと思う。滝壺で落ち口を見上げながら水しぶきを浴びると、白神山地の香りがするような気がする。

帰り道は、第三の滝を過ぎてしばらく進んだところから右手の山に取り付き、「ブナ林散策道」経由のルートをとって見た。その名の通りの、時の流れを感じる美しい林が続く、体の各所の穴からきれいな空気が入り込んでくるような気分になってくる。急登もあり、散策道と名が付いているが立派な山道という感じだ。

## 踏 み 跡 <My Mountains>

駐車場に戻ると 14 時 40 分。往復で約 4 時間歩いたことになる。白神山地のごく触りの部分として暗門の滝の往復だけを体験したが、白神山地の大きさと深さと様々な豊かさを体感することができた。豊かな山から絶え間なく流れ出てくる水の力強い音と色、これが白神山地の力に違いない。

西目屋を後にして県道岩崎西目屋弘前線（28 号線）を戻り、弘前岳鱒ヶ沢線（3 号線）に入り嶽温泉へ。まだ時間が早いので、津軽岩木スカイラインを岩木山 8 合目まで車で登って見る。

高度を上げて行くに従って周囲の紅葉が進んで行き、中腹あたりの紅葉がちょうど見頃のようにだ。

8 合目からは白神山地の全貌と日本海が大きなスクリーンに広がって見える。

嶽温泉に下って、小島屋旅館に宿泊。正面に白神山地、背中に岩木山とは贅沢な宿で温泉を堪能した。

### 平成 16 年 10 月 15 日 嶽温泉→岩木山（鳥海山）→嶽温泉→鱒ヶ沢→十二湖→みちのく温泉

かみさんの誕生日。天気は快晴、素晴らしい青空。恒例の朝風呂と散歩の後朝食。

小島屋旅館を 8 時 20 分に出発。昨日走った道を再び岩木山 8 合目を目指して登って行くと、青空・紅葉・山々の眺め・・・文句の言いようがない。何度となく繰り返されるヘアピンカーブを心地よく走る内に、中腹辺りまで来たら突然霧に包まれてしまった。8 合目の駐車場に着くまで濃い霧の中で視界が心配な運転が続いた。

8 合目に 9 時に到着。海拔 1238m、気温は 3 度、霧の海はやがて小雨に変わった。意を決して、計画通りリフトで上へ上ることにした。雨着に身を固めて出発。

リフト終着駅からしばらく歩くと鳥の海火口。鳥海山頂上を往復したところで、雨は本格的な降り方になり、しかも寒くなってきたので、岩木山山頂三角点（1624.7m）は諦めて下りのリフトに乗ることにした。

駐車場に戻り、車の中で着替えて軽食をとり下山開始。視界はさらに悪くなっていたが、中腹まで来たら曇りに変わった。真っ盛りの紅葉を楽しむべく、何度も何度も途中下車して散歩しながら下った。

弘前岳鱒ヶ沢線（3 号線）北に進み山を越えて日本海側の鱒ヶ沢へ。

鱒ヶ沢からは海岸線に沿って走る国道 101 号線。五能線が並行して走り、何度か潜ったり踏切を渡ったりするが、列車はなかなか姿を現さない。海岸線の景色や国道沿いの見どころ・立ち寄りどころを楽しみながらのドライブが続く。絶えず西側には向こう岸のない日本海。

今宵の宿であるみちのく温泉を通り過ぎて 10Km ほどで十二湖の入り口に着いた。中に入って車を停めて、十二湖の散策。

みちのく温泉は日本海に面した絶壁の上にあり、宿の庭先を五能線の線路が走っている。

ひと風呂浴びて窓からの景色を楽しんでいたらディーゼルカーが通り抜けていった。



### 平成 16 年 10 月 16 日 みちのく温泉→八森→二ツ井→東能代→秋田→東京

今日（最終日）の行程は忙しい。ひたすら走りながら土産物を探し、さらに二ツ井町の若松さんの店へも立ち寄りなければならない。

朝風呂と朝食をこなしてすぐに出発。右手に日本海を見ながら、そして土産物を探しながら国道 101 号線を南へ南へ。ハタハタで有名な八森を通って峰浜村から県道常磐峰浜線（63 号線）に入り内陸へ。

常磐から米代川に沿って 10Km ほどで二ツ井町になる。二ツ井は奥羽本線と米代川に挟まれたこじんまりとまとまった小さな町で、いきいきとした息吹を感じる町だ。

計画通り、駅前通り商店街の「手打ちそば わか松」へ。山中湖マラソンの仲間で同じ会社（グループ会社）

## 踏 み 跡 <My Mountains>

にいたS子さんが、マラソン仲間の二ツ井町のWさんと結婚してこの町に住むようになった。そして二人で手打ちそばの店を開業した。一度味わいに行きたいものだと思っていたが、ようやく実現した。

旧交を温め、手打ち蕎麦と比内鶏の昼食（比内鶏は若松さんにごちそうになった）。

Sさんから、「時間があるなら帰りに日本一の杉（樹高 58m）を見て行くように」と勧められたので、寄って見ることにした。走って見たらなんと田代川に沿って 20Km も先、二ツ井から小阿仁に抜ける山中だった。入口までは辿りついたが、そこからまだ歩かなければならない。レンタカーを返して秋田から新幹線に乗るスケジュールから見て、時間的にちょっと厳しそうなので見物は諦めることにして、付近を写真撮影。

二ツ井町に戻り、米代川の南岸を走る国道 7 号線を西へ。時計と睨めっこをしながら僅かに速度を上げて、東能代駅に 13 時 45 分着。

レンタカーを返して 13 時 57 分発の電車に飛び乗り。

秋田駅でお土産を買い足して 14 時 58 分発の新幹線に乗り、慌ただしいフィニッシュとなった。

秋田新幹線ができて 5 時間で東京に着いてしまうようになった。距離を時間で縮めてくれる科学技術の進歩は有難いが、距離が持つ意味や味わいが失せて行くようにも思われ、複雑な心境である。

また、これまでの白神山地のように、「誰でも行くことができる場所ではない」場所がなくなってしまうのは心配なことでもある。

目を閉じると、どっしりと構えた白神山地とその山の中を力強く流れる水の音が蘇って来る日が、何日か続いた。世界遺産、世界遺産と騒ぎ立てるのはあまり好きではないが、「素晴らしい自然の力」は後世に残していかなければならない。

以上